

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	感覚・知覚心理小委員会		主 査 名：西名 大作 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)		委員長名：久野 覚 主 査 名：大井 尚行
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	設置目的：本小委員会は、感覚・知覚心理をキーワードとする横断的な組織として、研究交流を活発化することで、本学会の発展に寄与することを目的とする。 活動計画：感覚・知覚心理に関する予め設定したテーマに沿って適当な研究者を委員内外より選定、シンポジウムを開催する。本年度は2回の開催を予定した。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	秋田剛 (東京電機大学), 梅宮典子 (大阪市立大学), 太田篤史 (横浜国立大学), 合掌頭 (岐阜大学), 澤島智明 (佐賀大学), 竹原広実 (京都ノートルダム女子大学), 竹村明久 (大同大学), 土田義郎 (金沢工業大学), 西名大作 (広島大学), 原直也 (関西大学), 原田昌幸 (名古屋市立大学), 松原斎樹 (京都府立大学), 光田恵 (大同大学), 宮本征一 (摂南大学), 山中俊夫 (大阪大学) 以上 15 名		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2010 年度予算	142,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. なし
講習会	1. なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	建築空間における感覚・知覚心理シンポジウム (第 8 回)「省エネルギー人間学のすすめ 環境心理はエコ社会に貢献できるか？」(2010.6.5) 参加者数：53 名 建築空間における感覚・知覚心理シンポジウム (第 9 回)「被験者は何人必要か？心理実験・調査研究におけるサンプリング 2」(2010.11.20) 参加者数：61 名
大会研究集会	1. なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	本年度はシンポジウムを 2 回、小委員会を 5 回 (1 回は予定) 開催した。前者は、目標の 2 回を開催し、参加者数も比較的多く、目標は十分に達成されたと考える。ただし、活動成果の刊行物化については、本年度、議題として各委員から意見の収集は試みたものの、明確な結論には至っておらず、来年度以降の課題である。
委員会活動の問題点・課題	常時出席の委員と、ほとんど欠席の委員に分かれる。遠隔地の委員はなかなか活動に参加できないため、小委員会開催前に十分に意見を収集する、メール審議を多用するなど対策の必要を感じるが、今年度は十分に達成されたとは言いがたい。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2010 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
<p style="text-align: center;">総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>建築環境工学の音，光，熱，空気等の各分野において，感覚・知覚心理学的的手法を用いる研究を主として取り扱い，研究成果をご紹介いただくシンポジウムの開催を軸として，横断的な研究交流を行い，参加者のポテンシャル向上を期するのが本小委員会の目的であり活動内容である。</p> <p>2009 年～2010 年の 2 ヶ年については，第 7 回～第 9 回のシンポジウムを企画，開催し，学界，業界を問わずいずれも多く参加者に恵まれ，活発な討議が行われており，概ね主たる目標は達成していると考え，総合評価は A としている。</p> <p>しかしながら，建築空間における感覚・知覚心理シンポジウムと銘打った，本小委員会が主催するシンポジウムも，前身の小委員会を含めると早 9 回を数えており，取り上げられた様々なテーマ，あるいはそれに係わる議論の内容について，広く一般の会員へ還元を図る必要が高まっている。これを受けて，シンポジウムの内容を再構成した書籍等の発行について，現在，検討を進めているが，未だ模索中の段階で，明確な方向を打ち出せていない点については，今後の課題である。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。